

第 3 期「かがわ教育ビジョン」における指標の設定について

【現状と課題】

「かがわ教育ビジョン」は、教育行政の目指すべき姿や、大きな方向性について記載しているものであり、4つの「基本的方向」の元に、15の「重点目標」、さらにその下に60の「具体的な方針」を定めている。それらの枠組みに沿った具体的な取組については、毎年の実行計画である「教育アクションプラン」において定めており、それぞれの取組ごとに評価指標（数値目標）を設定し、例年、その達成度について教育委員会が「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価」において自己評価を行っている。

この手法により、各取組における毎年の評価や達成度は可視化されているものの、「かがわ教育ビジョン」に掲げる目標や方向性がどれだけ達成されているかは見えにくい状況である。

【「かがわ教育ビジョン」における指標の設定】

以上を踏まえ、「かがわ教育ビジョン」においても評価指標を設定し、最終的な目標数値を定め、計画の進捗状況について把握し、目標達成のための課題と対策を図るうえで一つのものさしとする。

（1）評価指標の設定レベル（案）・・・「重点目標」ごとに設定

現状の計画の枠組み（4つの「基本的方向」、15の「重点目標」、60の「具体的な方針」）を基本的に継承するとして、国や他市の事例を参考にすると、「重点目標」ごとに設定することが妥当といえる。

《国や他市の指標設定状況（令和2年5月1日現在の最新計画における状況）》

	加古川市（第2期）	国（第3期）	姫路市（第3期）	伊丹市（第2期）
構成	基本的方向 4 重点目標 15 具体的な方針 60	基本的な方針 5 教育政策の目標 21 施策群 多数	基本的政策 3 政策 6 施策 23 事業 95	基本目標 4 基本方針 6 主要施策 11 基本施策 30
指標設定レベル	未設定	教育政策の目標 21	施策 23	基本施策 30

(2) 評価指標の設定方法 (案)

例 1・・・「市民満足度」を指標として設定

《指標の設定イメージ（現行「かこがわ教育ビジョン」「加古川市総合基本計画」での想定）》

基本的方向	1 地域総がかりの教育		
重点目標	① 学校園・家庭・地域の連携・協力を強化し、社会全体の教育力を向上させる		
指標 (市民満足度 「満足」・「やや満足」の合計)	指標名	実績(令和2年度)	目標(令和7年度)
	教育を支える環境に満足している市民の割合	50.4%	55%
	青少年の健全な育成に関して満足している市民の割合	48%	53%

基本的方向	2 「生きる力」の育成		
重点目標	④「確かな学力」を培う		
指標 (市民満足度 「満足」・「やや満足」の合計)	指標名	実績(令和2年度)	目標(令和7年度)
	義務教育の内容に関して満足している市民の割合	55.1%	60%

<効果>

- ・市民の率直な思いを計画の達成度として反映することができる。
- ・「加古川市総合基本計画」と「かこがわ教育ビジョン」との整合と連携を図ることが可能となる。

<課題>

- ・計画に基づく取組の推進が必ずしも市民満足度に直接反映されない。
- ・「重点目標」に対し施策ごとの市民満足度で対応する指標がないものがある。

例 2 . . . 個別に具体的な指標を設定

《指標の設定イメージ（現行「かがわ教育ビジョン」での想定）》

基本的方向	1 地域総がかりの教育		
重点目標	①学校園・家庭・地域の連携・協力を強化し、社会全体の教育力を向上させる		
指標	指標名	実績(令和2年度)	目標(令和7年度)
	学校園支援ボランティアの活動延べ人数	81,645人	85,000人
	児童クラブ支援員の資質向上に向けた研修会の満足度	80%	90%
	キャンプ等における参加者満足度	70%	80%

基本的方向	2 「生きる力」の育成		
重点目標	④「確かな学力」を培う		
指標	指標名	実績(令和2年度)	目標(令和7年度)
	自分の考えを発表する機会で、自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表したと答える児童生徒の割合	54%	60%
	A L Tとの授業や交流を楽しいと答える児童生徒の割合	80%	90%
	学校の授業以外で、1日あたり30分以上読書をしている児童生徒の割合	40%	50%

<効果>

- ・具体的な指標を設定することで、重点的に取り組むべき事項をより明確にすることができる
- ・指標の達成度に応じて、今後の具体的な対策を講じやすくなる。

<課題>

- ・指標が具体的過ぎると、大きな計画の進捗を図るには適さない。